

❖ 科目名 Course Title			
思索と言語 ことばを科学する：人間の再発見			
❖ 担当教員 Instructor			
奥 聡			
❖ 開講学期 Semester	後期	❖ 対象学年 Year	1～
❖ 履修可能人数 Capacity	制限なし（遠隔） 制限なし（対面）	❖ 単位数 Number of Credits	2
❖ 授業形態 Type of Class	講義		

❖ キーワード Key Words	
科学とは何か、言語、音韻、意味、文法、子どもの母語獲得、日英語比較	
❖ 授業の目的 Course Objectives	
❖ 授業概要 Course Description	
<p>「私の隣にキリンはいない」。「昨日雨が降らなかったら、公園でサッカーができたのに」。これらの文と同じ情報をことば以外の方法（たとえば、図や絵）で簡単に表すことはできないでしょう。また、人間以外の動物のコミュニケーションでもこのような意味を表す仕組みはないと考えられています。しかし、人間であればどの言語の話者でも3歳にもなれば上記のような表現を簡単にすることができます。</p> <p>この授業では、1950年代から始まった新しいことば研究の方法論（生成言語理論）を基調に、人間が持つことばのさまざまな側面について考えてみます。特に、自分の母語は自分にとってあまりにも当たり前のもので、それを客体化してあらためて考えるということをしなげばかりか、自分のことばのことは自分がよく知っていると思込んでしまいがちです。人間のことばを操る能力は実際には大変不思議で、奥が深いものです。その特徴を少し知ることによって、自分自身を含めた人間というものを「再発見」する機会にしたいと考えています。</p> <p>同時に、人間の言語能力の研究方法を通して、科学的な研究の本質とは何かを考えてみる機会にしたいと思います。</p>	
❖ 到達目標 Course Goals	
受講生は、人間の持つ言語能力のおもしろさ・不思議さを理解するようになります。また、「科学的に」言語を研究する方法の概要を一部理解するようになります。同時に、受講生は（英語を含む）文書・論説を読み、まとめるトレーニングを受けることになります。	
❖ 授業計画 Course Schedule	
<p>毎回の講義の内容はおおよそ以下の予定（変更あり） また、授業中にペアワーク（グループワーク）・ディスカッションも行う予定。</p> <p>Week1 イントロダクション：人間言語とは？言語科学とは？新しい言語学の誕生 Week2 科学的に研究するとは？「言語能力」と「言語運用」 Week3 - 4 「単語」の再発見：そもそも「単語」とは何？頭の中の辞書はただの「語彙のリスト」ではありません Week5 - 6 「言語音」再発見：なぜ聞き分けられる「大学」と「退学」。方言は「なまっている」？ Week7 - 9 「文を組み立てる仕組み」の再発見：無限を生み出す力。初めて聞く文でもなぜ理解できるのか？ week10 自然科学としての言語研究 Week11 - 12 「意味」の再発見：あなたの「机」と私の「机」同じ意味？「自分」は誰？ Week13 - 14 「言語獲得」の再発見：いつのまに覚えたの？獲得研究の方法論 Week15 まとめ：ことばの使用について。「人間」の再発見</p>	

❖ 成績評価Grading System 評価は原則以下の通り： (A) 期末レポート：20% (B) Homework/Class Work：80% Homework: reading assignmentが中心 (40% ~ 50%) (必要なreading資料の配布と宿題はWebTubeで行います) Pre-class Work/In-class Work (30% ~ 40%) *参加学生に人数によっては、評価の方法を修正する可能性もあります (その場合も第4週まで明示します)。
❖ テキストTextbooks (必要な資料を教員が配布する予定)
❖ 参考書Reading List (授業開始時に指示する)
❖ 準備学習Homework 受講生は、毎週簡単な宿題を提出しなければなりません(宿題は、一部は授業の復習、一部は次回授業の予習となる内容)。2単位の授業なので、3時間の準備学習が必要ということになります。
❖ オフィスアワーOffice Hour
❖ 連絡先 (E-mail) E-mail
❖ 質問・相談への対応方法Contact Information
❖ 履修上の注意Notes
❖ 備考Other Information

※「対象学年」と「単位数」は、科目提供大学における数字であり、受講大学に応じて異なるので、所属大学で確認してください。

※「履修可能人数」は、科目提供大学以外的人数であり、遠隔と対面それぞれの受講形態で履修できる人数を示しています。(例.5(遠隔), 5(対面):遠隔授業で5名, 対面授業で5名まで履修可能。)

※北海道大学の対面授業は、教室の収容人数によって履修できない場合があります。